

して一千人につき三人二分の死亡率とすれば人口三百萬につき一ヶ年九千六百人の死亡人員となるなり。今東京市最近統計により死亡數の百分の五即ち四十八人を殺死他の疾病以外の死者とし、疾病に基く死者を毎年九千五百五十二人とするときは患者總數三十二萬四千七百六十八人となり、其休業日數は六百四十九萬五千三百六十日(一人二十日として)に達し、患者治療費一日一人三十五錢とせば、二百二十七萬三千三百七十六圓の治療費となるべし。

(ハ) 疾病による生産損害 生産能力を有する人は百人中四十五人なるにより、疾病的爲め休業日數二百九十二萬二千九百十二日となるが故に、一人一日の勞金を五十錢とせば百四十六萬千四百五十六圓の損失を受くべし。

即ち合計三百七十三萬四千八百餘圓の利益を受くる理なり

五、火災防止に伴う利益 東京市の火災を見るに(甲)過去二十年前の事實即ち明治二十九年より同三十一年の統計によれば焼失家屋の比は全市戸數に對し〇・〇〇三九なりしも、(乙)最近即ち大正四年より六年の統計にては〇・〇〇一九

土木

三心橢圓拱の描き方

三心橢圓を描く色々の方法があるが今茲に記すのが最便利な様である第一圖は小なる半徑 r が定められたとき第二圖は大なる半徑 R が定められたときに使うものである先づ第一圖で説明すると此時には A 及 B を知つて居るのであるから垂直軸の上に A をとり圖の様に E 點を定め C 點と結び之を

と爲り、更に焼失家屋の坪數に見るとときは次表の如く乙は甲に比して著しく減少せり。

減少坪數	(甲)自明治十九年至二十四年		(乙)自大正四年同六年		合計六十六萬二千六百八十圓	
	木(屋上燃失物)	造(屋上燃失物)	木(屋上不燃)	土藏造	煉瓦造	石造
六〇五二	六一五〇	二〇、八一一	二二三一	二七九	八二	八四
二、〇七八	一八、七三三	八二	六三	〇	一四九	二一六

仍て之を金額に見積るとときは木造の五十六萬九千圓(坪七十圓)、土藏造の三萬七千二百五十圓(坪二百五十圓)、煉瓦造の五萬四千圓(坪二百五十圓)、石造の二千四百圓(坪三百圓)の合計六十六萬二千六百八十圓となるべし。

尙家屋以外の財産焼失損害は家屋損失額の約五割(自明治四十四年至大正四年京都市の統計)なるを以て三十三萬一千三百四十圓となり、兩者合計九十九萬四千餘圓の利益は、之れ東京市區改正、屋上制限及消防改良等の効果と謂ざる可らず。(建築世界第十三卷第四號)(長崎)

等分する垂線を引き垂直軸と O にて交はらす時は此點が求め R の中心になる、同様に第二圖では水平軸の上に R をとり圖の様に E 點を定め次に E と O とを結び之を二等分する垂線をひき水平軸と交はる點を C とすれば之が求める r の中心になる。(Eng News-Record, March 6, 1919. B. Silberberg, TS)